

かわと生きる 新たな挑戦で地域をもっと好きに



「禁止する」のではなく、
「安全に楽しめる仕組み」をつくる。

凍結した糠平湖の湖上を自転車で走る「糠平湖氷上サイクリング」。
水の中に気泡が閉じ込められる「アイスバブル」がSNSなどで話題となり、タウシュベツ川橋梁とともに冬の観光スポットとして注目を集めていた糠平湖。以前から湖上を自転車で走る人がいることを知っていた鈴木さんは、スキーパトロールなどの経験から、「いつか事故が起きるのではないか」と安全面を危惧していた。しかし、そこで「禁止する」するのではなく、「安全対策をした上で楽しめるルールをつくれればいい」と考え、実現に向けて動き始めた。糠平湖は国立公園内に位置することから、環境省や森林管理署、北海道、自治体、さらにはダム湖を管理する電源開発など、さまざまな関係機関との調整が必要だった。安全面や環境面について協議を重ね、約4年の歳月をかけて、ようやく「糠平湖氷上サイクリング」の実現にたどり着いた。
鈴木さんは、そんな糠平湖に、かつてとは違う形で再び人が集まる場所にしようと拠点としている「ヒグマ珈琲」では、ダム湖の記念ブレンドを展開するなど、湖や地域の歴史、そして新たな楽しみ方の創出に取り組んでいる。

糠平湖の冬に、
新たな人の流れをつくる。
「糠平湖氷上サイクリング」

冬のシーズンを通して100名を超えるサイクリストが北海道でも珍しい凍結した湖上のサイクリングを楽しんでいる。



鈴木 宏

新潟県長岡市出身。株式会社東京ドームにて野外ステージやアウトドア事業の経験を経て、ニセコのスキー場でのアウトドアアクティビティの仕事に従事。その後、上士幌町の地域おこし協力隊として移住。地域の魅力とオフシーズンの雇用に繋がるコンテンツを開発に取り組んでいる。一般社団法人とかちアドベンチャーサイクル代表理事、ヒグマ珈琲オーナー。

糠平湖氷上サイクリング

湖面の凍結状況から安全性を判断して、シーズンの開始と終了をサイト内で告知。1日20名の限定開放として受付通行証の受け渡し→乗入れ→通行証の返却という流れで安全面とマナーの啓発・管理を行っている。氷上サイクリングでは自転車のレンタルやツアーも行っている。

■<https://kamishihoro.info/ice-cycle/index.php>

